

MIS036-P26

会場: コンベンションホール

時間: 5月26日 14:15-16:15

東濃地震科学研究所 深部ボアホール応力計により観測された応力地震波形による震源時間関数と最終作用応力に関する考察

Examination concerning source time function and permanent stress by using data observed by borehole stress meter

石井 紘^{1*}, 浅井 康広¹

Hiroshi Ishii^{1*}, Yasuhiro Asai¹

¹ 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研

¹ TRIES

東濃地震科学研究所では深部ボアホール応力計を開発し、連続データを蓄積している。2011年東北地方太平洋沖地震による応力地震波を深度500メートルのボアホールに設置した地殻活動総合観測装置に搭載された多成分応力計により観測することが出来た。ボアホール観測点は震源から約570キロメートル離れている。この波形を解析することにより震源時間関数と地震により作用した主応力を推定することが出来たと考えている。この方法と結果について考察した結果を報告する。

キーワード: 震源時間関数, ボアホール応力計, 2011年東北地方太平洋沖地震, 作用した主応力, 応力地震波形

Keywords: source time function, borehole stress meter, applied permanent stress, stress seismograms, M9.0 earthquake